

多忙化改善に関する教職員の意識調査・集計結果

1. 目的

勤務状況や多忙感などについて、教職員個々にアンケート調査を実施することにより、教職員の働き方について、勤務時間以外の側面からも把握・分析し、本県の多忙化改善の取組に反映させる。

2. 調査対象校

県内公立小中学校・高等学校・特別支援学校の抽出校 88校

市町立学校 62校

(小学校 37、中学校 25)

県立学校 26校

(全日制 16、定時制 3、特支 6、中学校 1)

3. 調査対象職種

校長、副校長、教頭、部主事、主幹教諭、指導教諭、教諭、養護教諭、
実習教諭、実習助手、寄宿舎指導員、講師

※ 本年度4月から勤務する者であり、「教職員勤務時間調査」と同一の
職種。

4. 回答数

全体 2,740名

(対象者数 2,767名、回収率 99.0%)

小学校 853名

中学校 711名

全日制高等学校 740名

定時制高等学校 78名

特別支援学校 358名

5. 調査期間

平成31年1月下旬

6. 項目

質問項目	
I. 基礎データに関する項目	
1	あなたの性別についてお聞きします。 ①男性 ②女性
2	あなたの年齢についてお聞きします。 ①20代 ②30代 ③40代 ④50代 ⑤60代以上
3	あなたの勤務する学校の校種についてお聞きします。 ①小学校（義務教育学校前期課程含む） ②中学校（義務教育学校後期課程含む） ③高等学校（全日制） ④高等学校（定時制・通信制） ⑤特別支援学校
4	あなたの勤務する学校の学級数についてお聞きします。実学級数でお答えください。 ①3学級以下 ②4～6 ③7～9 ④10～12 ⑤13～15 ⑥16～18 ⑦19～21 ⑧22学級以上
5	あなたの職名についてお聞きします。 ①校長 ②副校長・教頭 ③部主事 ④主幹教諭 ⑤指導教諭 ⑥教諭 ⑦養護教諭 ⑧実習教諭・実習助手 ⑨寄宿舎指導員 ⑩講師(養護助教諭、臨任実習助手などを含む)
6	あなたは学級担任をしていますか。 ①学級担任をしている ②していない
7	あなたはいずれかの主任をしていますか。 なお、①～⑥の主任を兼務している場合には、そのすべてをチェックしてください。 ①教務主任 ②生徒指導主事 ③進路指導主事 ④総務主任 ⑤保健主事 ⑥学年主任 ⑦他の主任をしている、または、主任はしていない
8	あなたは部活動顧問をしていますか。 ①運動部顧問 ②文化部顧問 ③部活動の顧問はしていない
9	あなたの今年度（H30.4～H30.9）の時間外勤務時間の月平均はどの程度ですか。 ①月45時間未満 ②月45時間以上60時間未満 ③月60時間以上80時間未満 ④月80時間以上100時間未満 ⑤月100時間以上
10	あなたの昨年（H30.1～H30.12）の年次有給休暇の取得日数はどれくらいでしたか。 ①0日 ②5日未満 ③5日以上10日未満 ④10日以上15日未満 ⑤15日以上20日未満 ⑥20日以上
II. 「取組方針」における統一した取組に関する項目	
11	月に1回の「定時退校日」の設定が、時間外勤務の縮減等に効果がありましたか。 ①そう思う ②ややそう思う ③どちらとも言えない ④あまりそう思わない ⑤そう思わない
12	学校ごとの「最終退校時刻」の目標設定が、時間外勤務の縮減等に効果がありましたか。 ①そう思う ②ややそう思う ③どちらとも言えない ④あまりそう思わない ⑤そう思わない
13	リフレッシュウィーク・学校閉庁日の設定が、多忙感や疲労感の改善、年次有給休暇等の取得促進に効果がありましたか。 ①そう思う ②ややそう思う ③どちらとも言えない ④あまりそう思わない ⑤そう思わない

質問項目	
II. 「取組方針」における統一した取組に関する項目	
14	<p>県教委作成のリーフレットの活用などにより、教職員の多忙な現状や多忙化改善に向けた取組について、保護者や地域の方々に理解が進みましたか。</p> <p>①そう思う ②ややそう思う ③どちらとも言えない ④あまりそう思わない ⑤そう思わない</p>
15	<p>部活動において、週2回の休養日の設定や活動時間の目安の設定が、時間外勤務の縮減等に効果がありましたか。</p> <p>①そう思う ②ややそう思う ③どちらとも言えない ④あまりそう思わない ⑤そう思わない</p>
III. 勤務する学校での多忙化改善の取組に関する項目	
16	<p>あなたの学校では、多忙化改善に積極的に取り組んでいると感じますか。</p> <p>①そう思う ②ややそう思う ③どちらとも言えない ④あまりそう思わない ⑤そう思わない</p> <p><u>①・②を選んだ人は、質問17・18・19へ →</u></p>
17	<p><u>16において、①または②と回答した方のみ</u>に質問します。</p> <p>積極的に取り組んでいると感じている具体的な内容はどのようなものですか。学校内で特に重点をおいて取り組んでいると感じるものを、次の中から2つ以内で選んでください。</p> <p>※具体例については県教委作成の「取組方針」P10参照。</p> <p>①勤務時間の管理に関すること。 (学校独自のノー残業デーの設定、定時に退校を促す放送を流す など)</p> <p>②意識改革に関すること。 (スローガンの設定や教職員向けのワークライフバランスの学習会を開催する など)</p> <p>③会議・校内研修に関すること。 (各種会議の実施方法等の工夫、校内委員会等の合同設置や構成員の統一 など)</p> <p>④学校が行う調査や連絡に関すること。 (マークシート利用などによる効率化、学校便りなどの整理統合 など)</p> <p>⑤校務分掌・学校行事・日課に関すること。 (校務分掌の適切な割り振り、学校行事の統合・削減 など)</p> <p>⑥環境整備・ICT化に関すること。 (職員室のレイアウト見直し、教材・資料などの電子データを学年や教科で共有する など)</p> <p>⑦地域との連携に関すること。 (地域ボランティアの協力を得る など)</p>
18	<p><u>16において、①または②と回答した方のみ</u>に質問します。</p> <p>取組が始まったことで、自分の時間外勤務の縮減につながりましたか。</p> <p>①そう思う ②ややそう思う ③どちらとも言えない ④あまりそう思わない ⑤そう思わない</p>
19	<p><u>16において、①または②と回答した方のみ</u>に質問します。</p> <p>取組が始まったことで、自分の多忙感や疲労感の改善につながりましたか。</p> <p>①そう思う ②ややそう思う ③どちらとも言えない ④あまりそう思わない ⑤そう思わない</p>

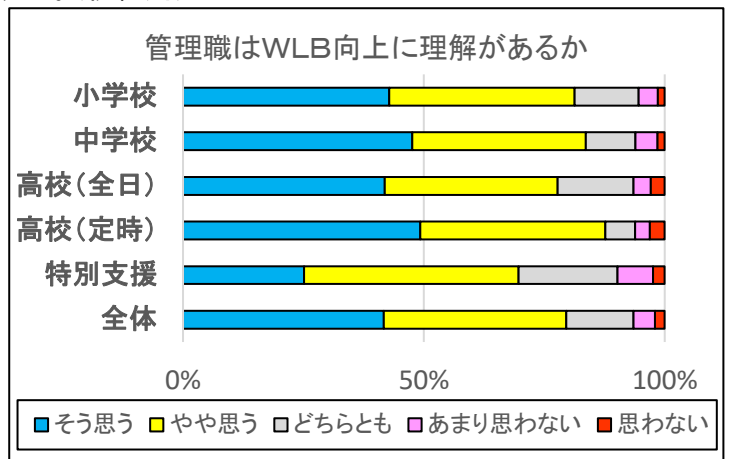
質問項目	
IV. 勤務する学校の職場環境に関する項目	
20	<p>管理職は、ワークライフバランスの向上に理解がありますか。</p> <p>①そう思う ②ややそう思う ③どちらとも言えない ④あまりそう思わない ⑤そう思わない</p>
21	<p>年次有給休暇等を取りやすい雰囲気がありますか。</p> <p>①そう思う ②ややそう思う ③どちらとも言えない ④あまりそう思わない ⑤そう思わない</p>
22	<p>特に仕事のない日でも、帰りにくい雰囲気がありますか。</p> <p>①そう思う ②ややそう思う ③どちらとも言えない ④あまりそう思わない ⑤そう思わない</p>
23	<p>業務が特定の人に偏らないように配慮されていますか。</p> <p>①そう思う ②ややそう思う ③どちらとも言えない ④あまりそう思わない ⑤そう思わない</p>
V. 自分自身に関する項目	
24	<p>あなたは、日々の業務全般について多忙感や疲労感を感じていますか。</p> <p>①そう思う ②ややそう思う ③どちらとも言えない ④あまりそう思わない ⑤そう思わない</p>
25	<p>あなたは、今の仕事にやりがいや誇りを感じていますか。</p> <p>①そう思う ②ややそう思う ③どちらとも言えない ④あまりそう思わない ⑤そう思わない</p>
26	<p>あなたは、自分の家庭や自分自身のための時間を確保できていますか。</p> <p>①そう思う ②ややそう思う ③どちらとも言えない ④あまりそう思わない ⑤そう思わない</p>
27	<p>自宅に持ち帰って、業務をすることは1週間の内どれくらいありますか。</p> <p>(繁忙期などを除く、一般的な業務のある1週間を想定した場合)</p> <p>①ほとんどない ②週に1日ある ③週に2～3日ある ④週に4～5日ある ⑤週に6～7日ある <u>②～⑤を選んだ人は、質問28へ →</u></p>
28	<p><u>27において②～⑤と回答した方だけに質問します。</u></p> <p>自宅に持ち帰って業務する主なものを、次の中から2つ以内で選んで下さい。</p> <p>①授業準備・教材研究 ②採点やプリントの丸付け、児童生徒の提出物の点検 ③成績処理や日々の児童生徒の評価のための資料作成 ④学年・学級、その他の通信の作成 ⑤会議資料の作成や行事等の企画・準備 ⑥週案や指導案などの作成 ⑦アンケートの集計 ⑧特別に決まったものではない</p>
29	<p>自宅に持ち帰って業務をすることは、これまでと比較して変化がありますか。</p> <p>①昨年度よりも増加した ②昨年度よりも減少した ③昨年度とあまり変化はない ④昨年度は勤務しておらず、比較はできない</p>

<特徴1>

管理職、一般教職員ともに、仕事がないときは早く帰ろうとする雰囲気や年休を取りやすい雰囲気があると感じており、教職員の意識改革は進んでいる。時間外勤務を助長する職場環境ではない。

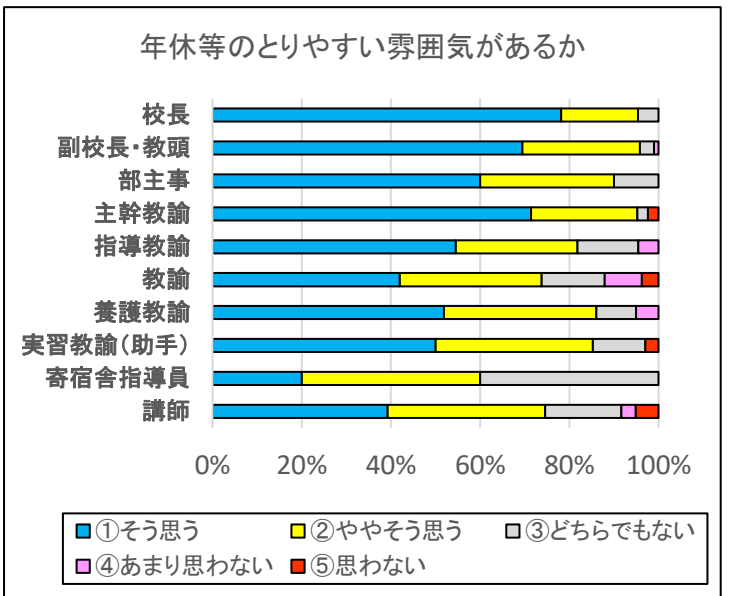
問 管理職は、ワークライフバランスの向上に理解がありますか。(校種別)

	有効回答数	① そう思う	② やや思う	③ どちらとも	④ あまり思わない	⑤ 思わない	①+ ②
小学校	776	43%	39%	13%	4%	1%	81%
中学校	658	48%	36%	10%	5%	2%	84%
高校(全日)	692	42%	36%	16%	4%	3%	78%
高校(定時)	65	49%	38%	6%	3%	3%	88%
特別支援	326	25%	44%	21%	7%	2%	69%
全体	2517	42%	38%	14%	4%	2%	80%



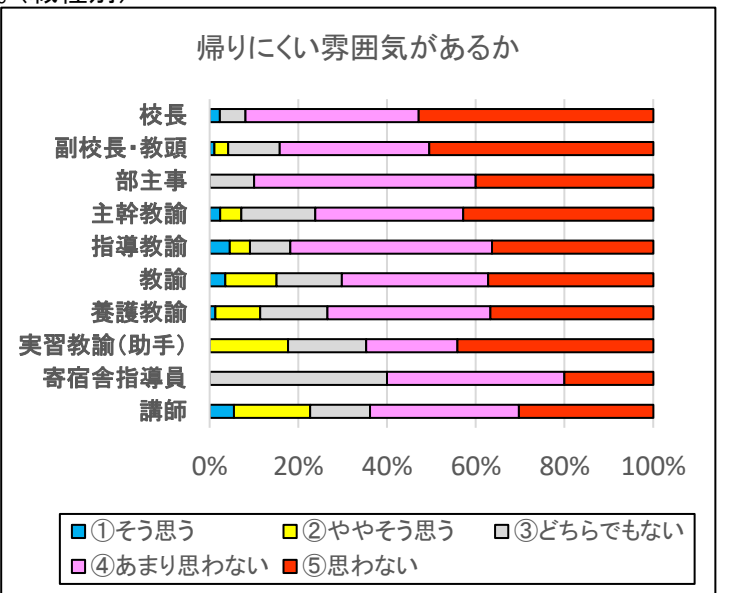
問 年次有給休暇等を取りやすい雰囲気がありますか。(職種別)

	有効回答数	① そう思う	② やや思う	③ どちらでもない	④ あまり思わない	⑤ 思わない	①+ ②
校長	87	78%	17%	5%	0%	0%	95%
副校長・教頭	95	69%	26%	3%	1%	0%	96%
部主事	10	60%	30%	10%	0%	0%	90%
主幹教諭	42	71%	24%	2%	0%	2%	95%
指導教諭	22	55%	27%	14%	5%	0%	82%
教諭	2022	42%	32%	14%	8%	4%	74%
養護教諭	79	52%	34%	9%	5%	0%	86%
実習教諭(助手)	34	50%	35%	12%	0%	3%	85%
寄宿舎指導員	5	20%	40%	40%	0%	0%	60%
講師	275	39%	35%	17%	3%	5%	75%
合計	2671	45%	31%	13%	7%	3%	76%



問 特に仕事のない日でも、帰りにくい雰囲気がありますか。(職種別)

	有効回答数	① そう思う	② やや思う	③ どちらでもない	④ あまり思わない	⑤ 思わない	④+ ⑤
校長	87	2%	0%	6%	39%	53%	92%
副校長・教頭	95	1%	3%	12%	34%	51%	84%
部主事	10	0%	0%	10%	50%	40%	90%
主幹教諭	42	2%	5%	17%	33%	43%	76%
指導教諭	22	5%	5%	9%	45%	36%	82%
教諭	2021	4%	12%	15%	33%	37%	70%
養護教諭	79	1%	10%	15%	37%	37%	73%
実習教諭(助手)	34	0%	18%	18%	21%	44%	65%
寄宿舎指導員	5	0%	0%	40%	40%	20%	60%
講師	274	5%	17%	14%	34%	30%	64%
合計	2669	3%	11%	14%	33%	38%	71%

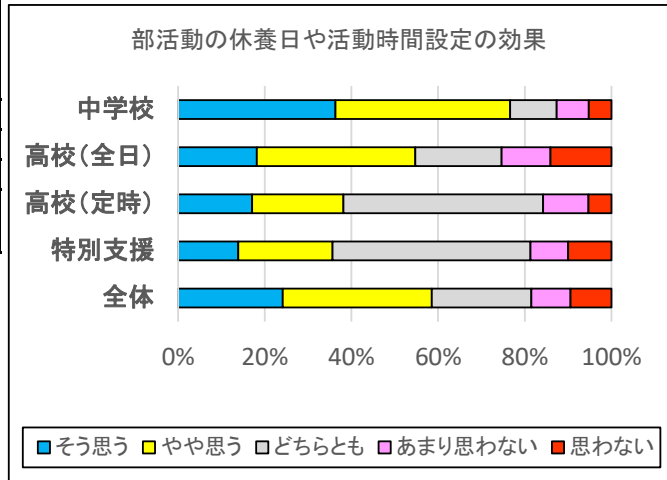


<特徴2>

部活動休養日や学校閉庁日は一斉に休むことが出来るため、効果があったと感じる教職員が多い。特に、これまで旧盆の期間も出勤することが多かった管理職にとって、気兼ねなく休める学校閉庁日は多忙感や疲労感の改善に効果があった。

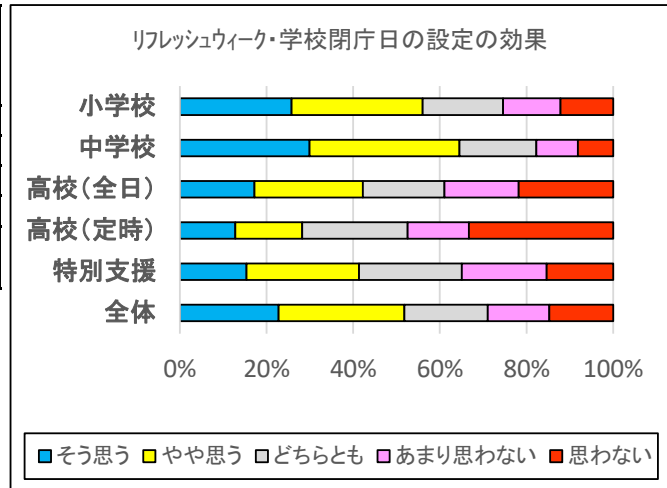
問 部活動において、週2回の休養日の設定や活動時間の目安の設定が、時間外勤務の縮減等に効果がありましたか。(校種別)

	有効回答数	① そう思う	② やや思う	③ どちらとも	④ あまり思わない	⑤ 思わない	① + ②
中学校	711	36%	40%	11%	7%	5%	77%
高校(全日制)	738	18%	37%	20%	11%	14%	55%
高校(定時)	76	17%	21%	46%	11%	5%	38%
特別支援	230	14%	22%	46%	9%	10%	36%
全体	1755	25%	35%	21%	9%	10%	60%



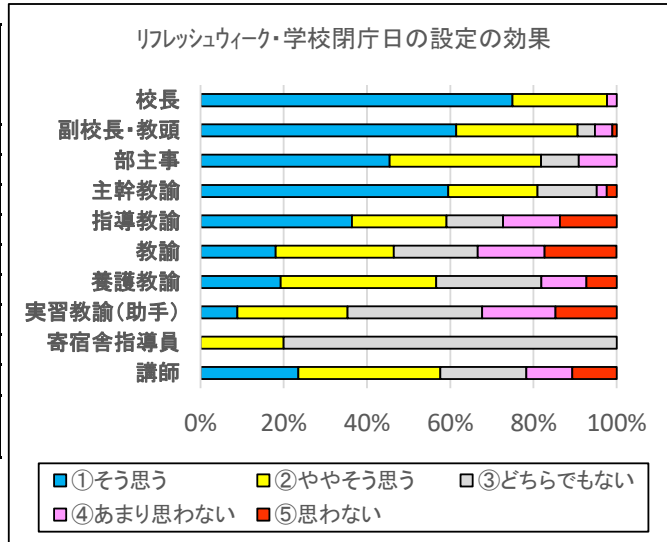
問 リフレッシュウィーク・学校閉庁日の設定が、多忙感や疲労感の改善、年次有給休暇等の取得促進に効果がありましたか。(校種別)

	有効回答数	① そう思う	② やや思う	③ どちらとも	④ あまり思わない	⑤ 思わない	① + ②
小学校	853	26%	30%	19%	13%	12%	56%
中学校	711	30%	35%	18%	10%	8%	65%
高校(全日制)	739	17%	25%	19%	17%	22%	42%
高校(定時)	78	13%	15%	24%	14%	33%	28%
特別支援	358	15%	26%	24%	20%	15%	41%
全体	2739	23%	29%	19%	14%	15%	52%



問 リフレッシュウィーク・学校閉庁日の設定が、多忙感や疲労感の改善、年次有給休暇等の取得促進に効果がありましたか。(職種別)

	有効回答数	① そう思う	② やや思う	③ どちらでもない	④ あまり思わない	⑤ 思わない	① + ②
校長	88	75%	23%	0%	2%	0%	98%
副校長・教頭	96	61%	29%	4%	4%	1%	91%
部主事	11	45%	36%	9%	9%	0%	82%
主幹教諭	42	60%	21%	14%	2%	2%	81%
指導教諭	22	36%	23%	14%	14%	14%	59%
教諭	2071	18%	28%	20%	16%	17%	46%
養護教諭	83	19%	37%	25%	11%	7%	57%
実習教諭(助手)	34	9%	26%	32%	18%	15%	35%
寄宿舎指導員	5	0%	20%	80%	0%	0%	20%
講師	281	23%	34%	21%	11%	11%	58%
合計	2733	23%	29%	19%	14%	15%	52%

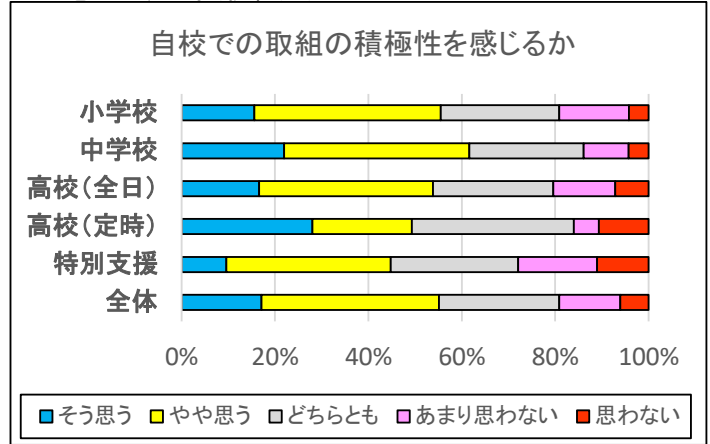


<特徴3>

どの学校においても、半数程度の教職員が多忙化改善に積極的に取り組まれていると感じている。また積極的な取組を感じている教職員については、時間外勤務時間の縮減や多忙感・疲労感の改善に対する効果も実感しており、一定程度の成果が表れている。

問 あなたの学校では、多忙化改善に積極的に取り組んでいると感じますか。(校種別)

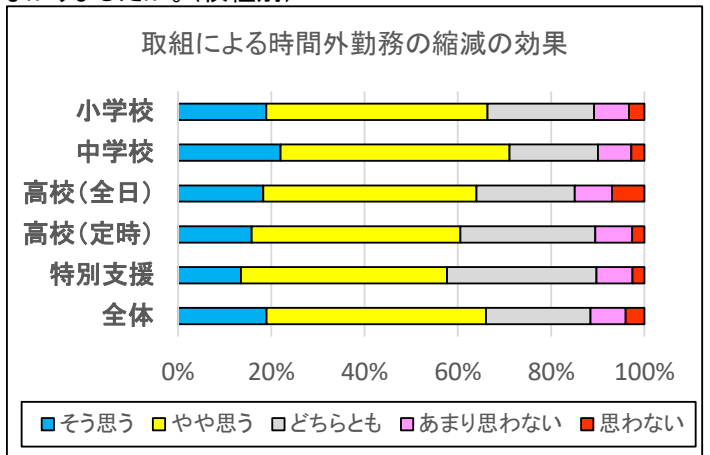
	有効 回答 数	① そう 思う	② やや 思う	③ どちら とも	④ あまり 思わ ない	⑤ 思わ ない	① + ②
小学校	827	16%	40%	25%	15%	4%	56%
中学校	706	22%	40%	25%	10%	4%	62%
高校(全日制)	730	17%	37%	26%	13%	7%	54%
高校(定時)	75	28%	21%	35%	5%	11%	49%
特別支援	344	10%	35%	27%	17%	11%	45%
全体	2682	17%	38%	26%	13%	6%	55%



問 上の問において、①または②と回答した方のみ質問します。

取組が始まったことで、自分の時間外勤務の縮減につながりましたか。(校種別)

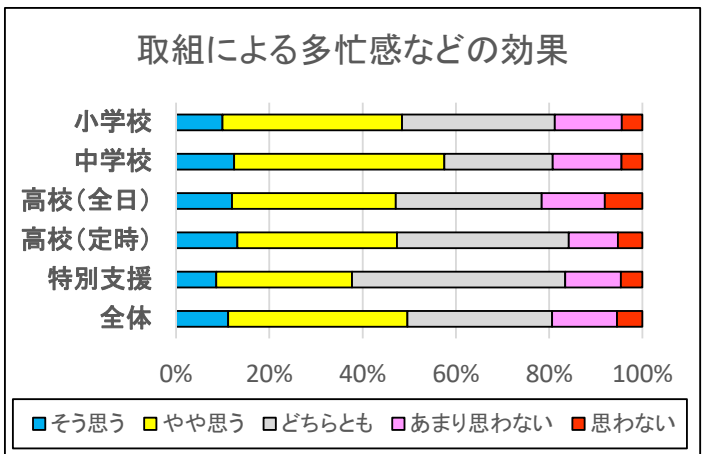
	有効 回答 数	① そう 思う	② やや 思う	③ どちら とも	④ あまり 思わ ない	⑤ 思わ ない	① + ②
小学校	455	19%	47%	23%	7%	3%	66%
中学校	432	22%	49%	19%	7%	3%	71%
高校(全日制)	389	18%	46%	21%	8%	7%	64%
高校(定時)	38	16%	45%	29%	8%	3%	61%
特別支援	156	13%	44%	32%	8%	3%	58%
全体	1470	19%	47%	22%	8%	4%	66%



問 上の問において、①または②と回答した方のみ質問します。

取組が始まったことで、自分の多忙感や疲労感の改善につながりましたか。(校種別)

	有効 回答 数	① そう 思う	② やや 思う	③ どちら とも	④ あまり 思わ ない	⑤ 思わ ない	① + ②
小学校	452	10%	38%	33%	14%	4%	48%
中学校	426	12%	45%	23%	15%	4%	58%
高校(全日制)	384	12%	35%	31%	14%	8%	47%
高校(定時)	38	13%	34%	37%	11%	5%	47%
特別支援	151	9%	29%	46%	12%	5%	38%
全体	1451	11%	38%	31%	14%	5%	49%



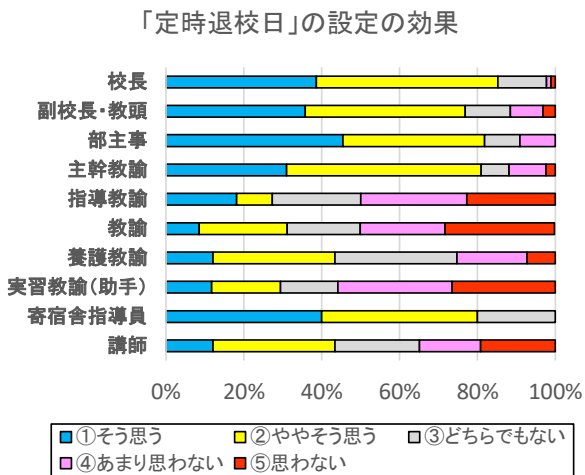
<特徴4>

定時退校日の設定や最終退校時刻の目標設定による効果は、教職員全体を見ている管理職は、効果を実感しているが、それ以外の一般教職員は、個人の状況によって受け止め方が異なっている。

保護者や地域への理解についても、保護者や地域と触れあう機会の少ない一般教職員には、管理職ほど実感されていない。

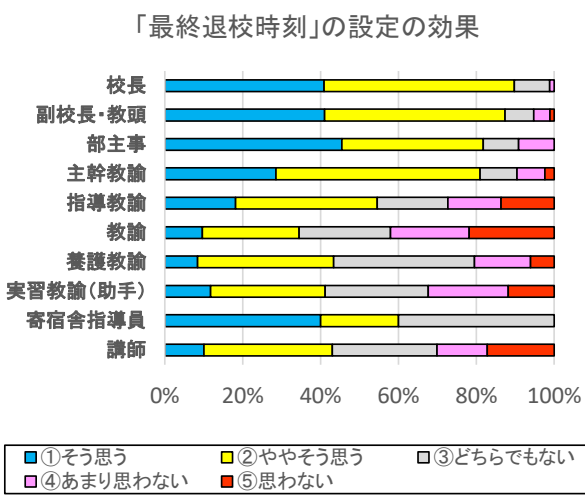
問 月に1回の「定時退校日」の設定が、時間外勤務の縮減等に効果がありましたか。(職種別)

	有効回答数	① そう思う	② ややそう思う	③ どちらでもない	④ あまり思わない	⑤ 思わない	① + ②
校長	88	39%	47%	13%	1%	1%	85%
副校長・教頭	95	36%	41%	12%	8%	3%	77%
部主事	11	45%	36%	9%	9%	0%	82%
主幹教諭	42	31%	50%	7%	10%	2%	81%
指導教諭	22	18%	9%	23%	27%	23%	27%
教諭	2068	9%	23%	19%	22%	28%	31%
養護教諭	83	12%	31%	31%	18%	7%	43%
実習教諭(助手)	34	12%	18%	15%	29%	26%	29%
寄宿舎指導員	5	40%	40%	20%	0%	0%	80%
講師	281	12%	31%	22%	16%	19%	43%
合計	2729	12%	25%	19%	20%	24%	37%



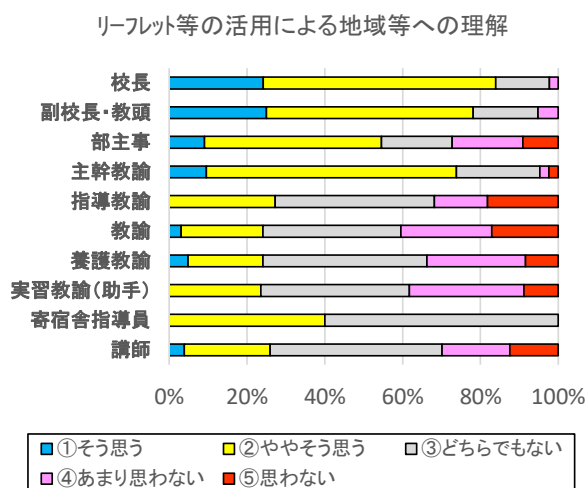
問 学校ごとの「最終退校時刻」の目標設定が、時間外勤務の縮減等に効果がありましたか。(職種別)

	有効回答数	① そう思う	② ややそう思う	③ どちらでもない	④ あまり思わない	⑤ 思わない	① + ②
校長	88	41%	49%	9%	1%	0%	90%
副校長・教頭	95	41%	46%	7%	4%	1%	87%
部主事	11	45%	36%	9%	9%	0%	82%
主幹教諭	42	29%	52%	10%	7%	2%	81%
指導教諭	22	18%	36%	18%	14%	14%	55%
教諭	2066	10%	25%	24%	20%	22%	34%
養護教諭	83	8%	35%	36%	14%	6%	43%
実習教諭(助手)	34	12%	29%	26%	21%	12%	41%
寄宿舎指導員	5	40%	20%	40%	0%	0%	60%
講師	279	10%	33%	27%	13%	17%	43%
合計	2725	12%	28%	23%	18%	19%	40%



問 県教委作成のリーフレットの活用などにより、教職員の多忙な現状や多忙化改善に向けた取組について、保護者や地域の方々に理解が進みましたか。(職種別)

	有効回答数	① そう思う	② ややそう思う	③ どちらでもない	④ あまり思わない	⑤ 思わない	① + ②
校長	87	24%	60%	14%	2%	0%	84%
副校長・教頭	96	25%	53%	17%	5%	0%	78%
部主事	11	9%	45%	18%	18%	9%	55%
主幹教諭	42	10%	64%	21%	2%	2%	74%
指導教諭	22	0%	27%	41%	14%	18%	27%
教諭	2070	3%	21%	35%	23%	17%	24%
養護教諭	83	5%	19%	42%	25%	8%	24%
実習教諭(助手)	34	0%	24%	38%	29%	9%	24%
寄宿舎指導員	5	0%	40%	60%	0%	0%	40%
講師	281	4%	22%	44%	17%	12%	26%
合計	2731	5%	24%	35%	21%	15%	29%

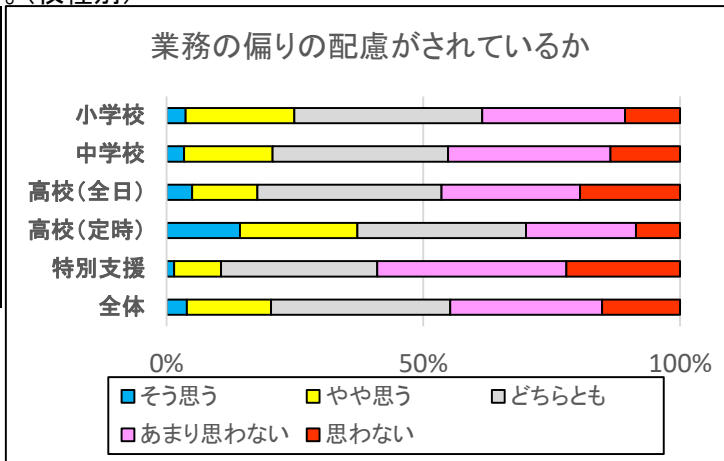


<特徴5>

どの校種、どの職種においても、業務の平準化が進んでいないと感じている教職員が多く、管理職でも肯定的回答は5割前後であり、十分とは言い難い。特に80時間を超える教職員では進んでいないと感じる割合が高くなり、長時間勤務者の業務内容を分析し、平準化を進める必要がある。

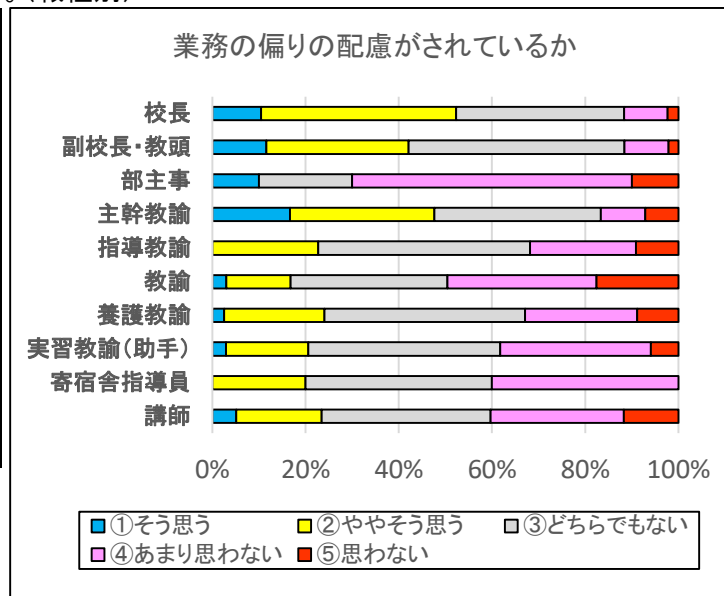
問 業務が特定の人に偏らないように配慮されていますか。(校種別)

	有効回答数	① そう思う	② やや思う	③ どちらとも	④ あまり思わない	⑤ 思わない	①+②
小学校	841	4%	21%	37%	28%	11%	25%
中学校	702	3%	17%	34%	32%	14%	21%
高校(全日制)	719	5%	13%	36%	27%	19%	18%
高校(定時)	70	14%	23%	33%	21%	9%	37%
特別支援	339	1%	9%	30%	37%	22%	11%
全体	2671	4%	16%	35%	30%	15%	20%



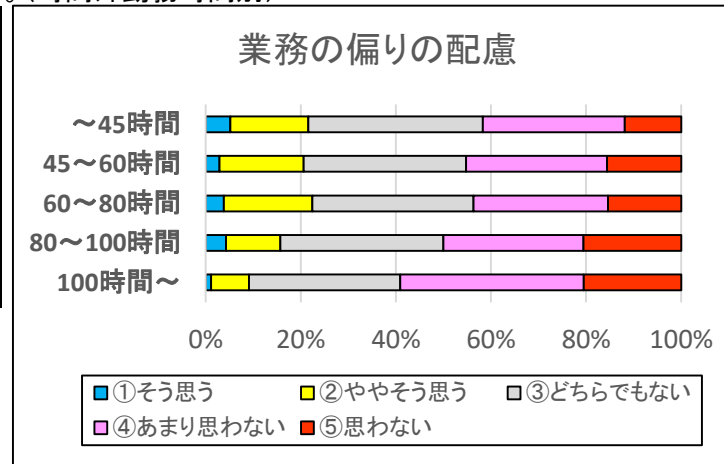
問 業務が特定の人に偏らないように配慮されていますか。(職種別)

	有効回答数	① そう思う	② やや そう思う	③ どちら でもない	④ あまり 思わ ない	⑤ 思わ ない	①+②
校長	86	10%	42%	36%	9%	2%	52%
副校長・教頭	95	12%	31%	46%	9%	2%	42%
部主事	10	10%	0%	20%	60%	10%	10%
主幹教諭	42	17%	31%	36%	10%	7%	48%
指導教諭	22	0%	23%	45%	23%	9%	23%
教諭	2019	3%	14%	34%	32%	18%	17%
養護教諭	79	3%	22%	43%	24%	9%	24%
実習教諭(助手)	34	3%	18%	41%	32%	6%	21%
寄宿舎指導員	5	0%	20%	40%	40%	0%	20%
講師	273	5%	18%	36%	29%	12%	23%
合計	2665	4%	16%	35%	30%	15%	20%



問 業務が特定の人に偏らないように配慮されていますか。(時間外勤務時間別)

	有効回答数	① そう思う	② やや そう思う	③ どちら でもない	④ あまり 思わ ない	⑤ 思わ ない	①+②
～45時間	861	5%	16%	37%	30%	12%	22%
45～60時間	694	3%	18%	34%	30%	16%	21%
60～80時間	655	4%	19%	34%	28%	15%	22%
80～100時間	350	4%	11%	34%	29%	21%	16%
100時間～	88	1%	8%	32%	39%	20%	9%
合計	2648	4%	16%	35%	30%	15%	20%



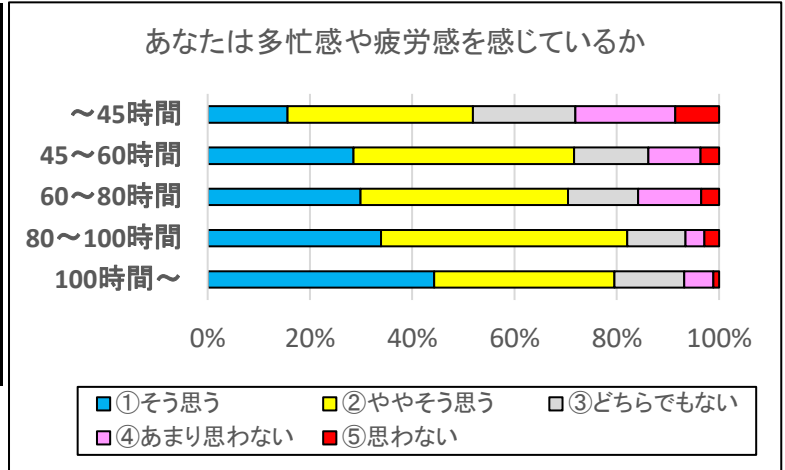
<特徴6>

時間外勤務時間が多いほど、やりがいや誇りを感じている教職員が多いが、多忙感や疲労感も感じている。

特に、80時間を超えると、自分の家庭や自分自身のための時間を確保できない割合が高くなる。やりがいを感じているからといって、放置しておく訳にはいかない。

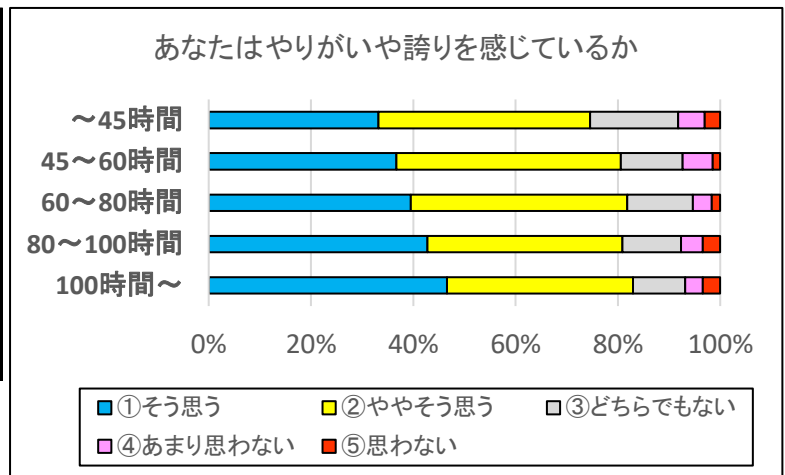
問 あなたは、日々の業務全般について多忙感や疲労感を感じていますか。(時間外勤務時間別)

	有効回答数	① そう思う	② やや そう思う	③ どちら でもない	④ あまり 思わ ない	⑤ 思わ ない	① + ②
～45時間	864	16%	36%	20%	20%	9%	52%
45～60時間	695	28%	43%	15%	10%	4%	72%
60～80時間	656	30%	41%	14%	12%	4%	70%
80～100時間	351	34%	48%	11%	4%	3%	82%
100時間～	88	44%	35%	14%	6%	1%	80%
合計	2654	26%	41%	16%	13%	5%	67%



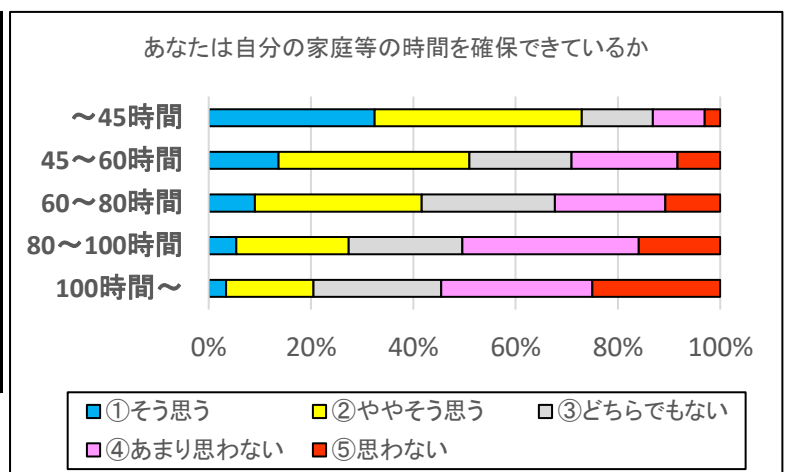
問 あなたは、今の仕事にやりがいや誇りを感じていますか。(時間外勤務時間別)

	有効回答数	① そう思う	② やや そう思う	③ どちら でもない	④ あまり 思わ ない	⑤ 思わ ない	① + ②
～45時間	864	33%	41%	17%	5%	3%	75%
45～60時間	695	37%	44%	12%	6%	1%	81%
60～80時間	655	40%	42%	13%	4%	2%	82%
80～100時間	351	43%	38%	11%	4%	3%	81%
100時間～	88	47%	36%	10%	3%	3%	83%
合計	2653	37%	42%	14%	5%	2%	79%



問 あなたは、自分の家庭や自分自身のための時間を確保できていますか。(時間外勤務時間別)

	有効回答数	① そう思う	② やや そう思う	③ どちら でもない	④ あまり 思わ ない	⑤ 思わ ない	① + ②
～45時間	864	32%	41%	14%	10%	3%	73%
45～60時間	695	14%	37%	20%	21%	8%	51%
60～80時間	653	9%	33%	26%	22%	11%	42%
80～100時間	351	5%	22%	22%	34%	16%	27%
100時間～	88	3%	17%	25%	30%	25%	20%
合計	2651	17%	34%	20%	20%	9%	52%

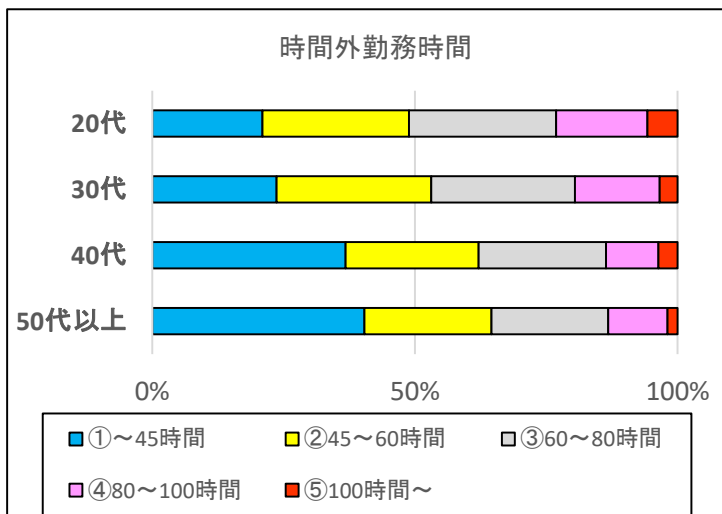


<特徴7>

20代は勤務時間が長く、年休の取得はどの年代よりも少ないが、やりがいや誇りを感じて仕事に取り組んでいる教職員が多い。頑張りすぎないように注意すること、力を付けられるようにサポートすることが必要である。

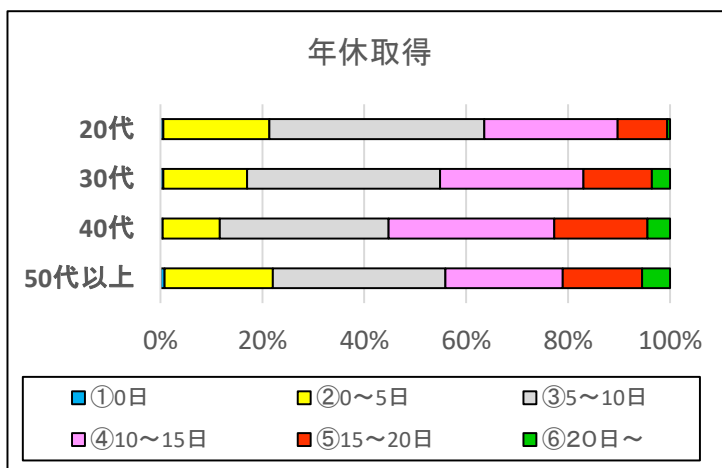
問 あなたは今年度(H30.4～H30.9)の時間外勤務時間の月平均はどの程度ですか。(年代別)

	有効回答数	① ～45時間	② 45～60時間	③ 60～80時間	④ 80～100時間	⑤ 100時間～	④ + ⑤
20代	524	21%	28%	28%	17%	6%	23%
30代	533	24%	29%	27%	16%	3%	20%
40代	470	37%	25%	24%	10%	4%	14%
50代以上	1189	40%	24%	22%	11%	2%	13%
計	2716	33%	26%	25%	13%	3%	16%



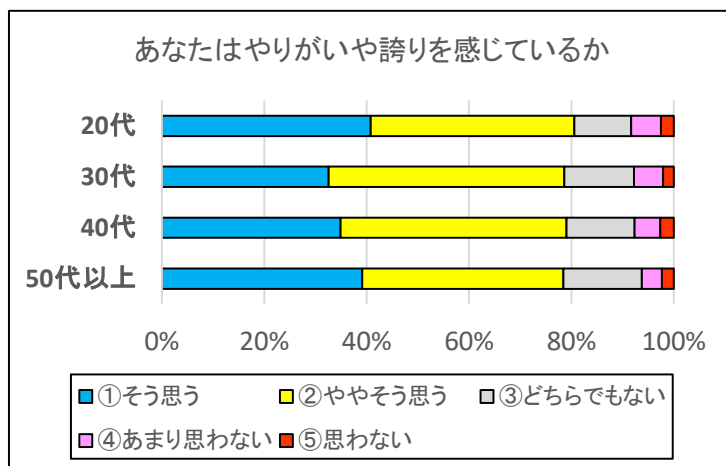
問 あなたの昨年(H30.1～H30.12)の年次有給休暇の取得日数はどれくらいでしたか。(年代別)

	有効回答数	① 0日	② 0～5日	③ 5～10日	④ 10～15日	⑤ 15～20日	⑥ 20日～	⑤ + ⑥
20代	524	1%	21%	42%	26%	10%	1%	11%
30代	536	1%	16%	38%	28%	13%	4%	17%
40代	471	0%	11%	33%	32%	18%	4%	22%
50代以上	1198	1%	21%	34%	23%	16%	6%	22%
合計	2729	1%	18%	36%	26%	14%	4%	18%



問 あなたは、今の仕事にやりがいや誇りを感じていますか。(年代別)

	有効回答数	① そう思う	② ややそう思う	③ どちらでもない	④ あまり思わない	⑤ 思わない	① + ②
20代	515	41%	40%	11%	6%	3%	81%
30代	528	33%	46%	14%	6%	2%	79%
40代	458	35%	44%	13%	5%	3%	79%
50代以上	1173	39%	39%	15%	4%	2%	78%
合計	2674	37%	42%	14%	5%	2%	79%

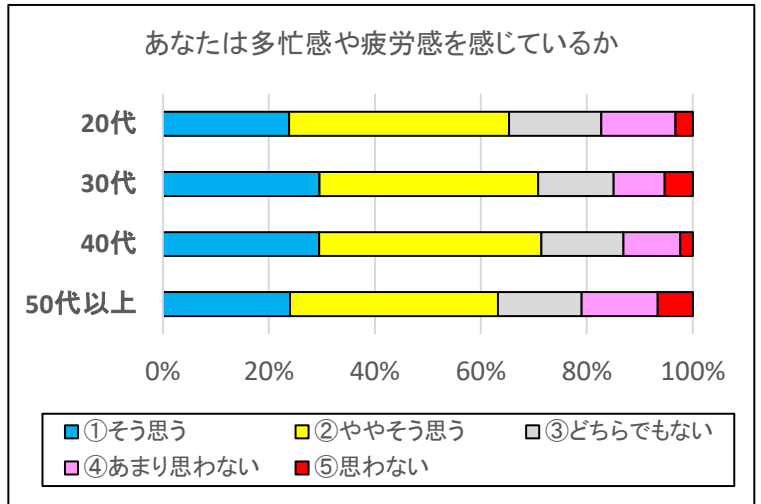


<特徴8>

30代・40代が多忙感や疲労感を感じている割合がやや高く、自分自身や家庭のための時間が確保できていると回答する割合が低い。また、各校での取組を実感している割合も低くなっている。中堅として期待されている時期であるが、ストレスを感じていることが予想され、組織の中心となって企画・実行できるよう、管理職やベテラン教員からの配慮が必要である。

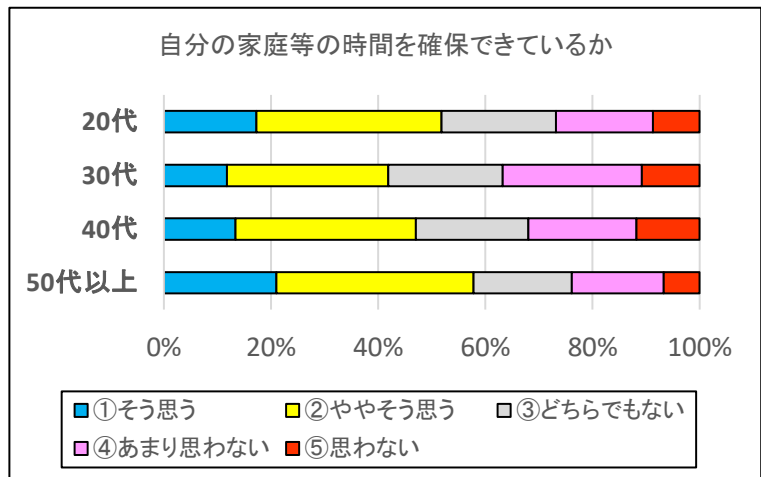
問 あなたは、日々の業務全般について多忙感や疲労感を感じていますか。(年代別)

	有効回答数	① そう思う	② やや そう思う	③ どちら でもない	④ あまり 思わない	⑤ 思わない	① + ②
20代	516	24%	41%	17%	14%	3%	65%
30代	528	30%	41%	14%	10%	5%	71%
40代	458	29%	42%	16%	11%	2%	71%
50代以上	1174	24%	39%	16%	14%	7%	63%
計	2676	26%	41%	16%	13%	5%	67%



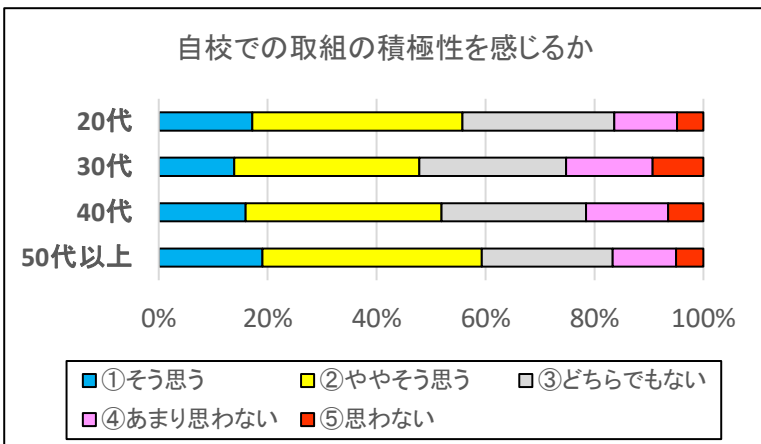
問 あなたは、自分の家庭や自分自身のための時間を確保できていますか。(年代別)

	有効回答数	① そう思う	② やや そう思う	③ どちら でもない	④ あまり 思わない	⑤ 思わない	① + ②
20代	515	17%	35%	21%	18%	9%	52%
30代	528	12%	30%	21%	26%	11%	42%
40代	457	13%	34%	21%	20%	12%	47%
50代以上	1173	21%	37%	18%	17%	7%	58%
計	2673	17%	35%	20%	20%	9%	52%



問 あなたの学校では、多忙化改善に積極的に取り組んでいると感じますか。(年代別)

	回答数	① そう思う	② やや そう思う	③ どちら でもない	④ あまり 思わない	⑤ 思わない	① + ②
20代	513	17%	39%	28%	12%	5%	56%
30代	527	14%	34%	27%	16%	9%	48%
40代	464	16%	36%	27%	15%	6%	52%
50代以上	1177	19%	40%	24%	12%	5%	59%
合計	2681	17%	38%	26%	13%	6%	55%



<特徴9>

自宅に持ち帰っての業務が常態化している教職員は、全体の1～2割程度おり、その中でも小学校がやや高い傾向にある。

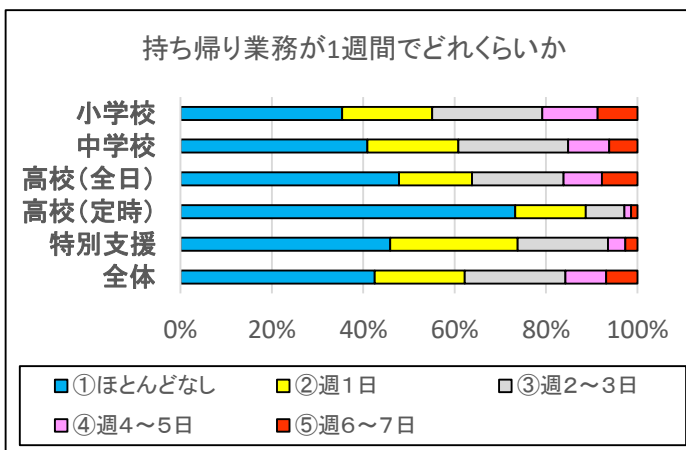
持ち帰り業務の内容は、最も多いのが授業準備・教材研究等であり、学校内において教材の共有などのさらなる対策を進める必要がある。

持ち帰り業務の頻度は、女性の方が多く、業務のやり残しを自宅に持ち帰って行っていることが考えられる。

本来、必要な業務は学校内で行うべきものであることから、自宅に持ち帰っての業務にならないように指導するとともに、学校内での業務の平準化を図る必要がある。

問 自宅に持ち帰って、業務をすることは1週間の内どれくらいありますか。(校種別)

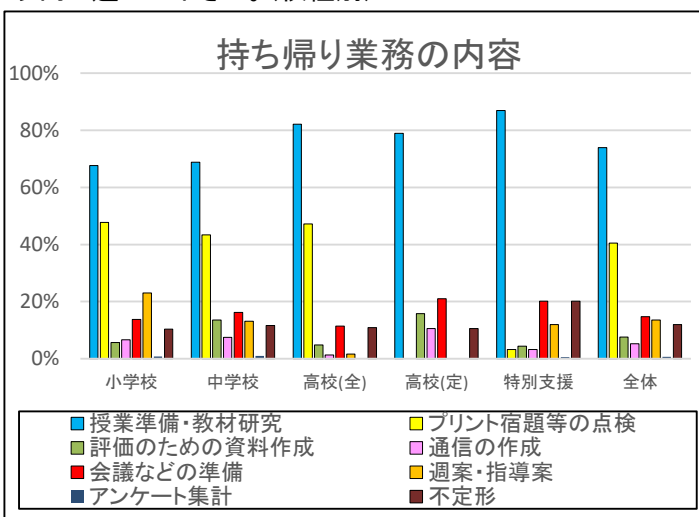
	有効回答数	① ない	② 週1日	③ 週2・3日	④ 週4・5日	⑤ 週6・7日	④ + ⑤
小学校	840	35%	20%	24%	12%	9%	21%
中学校	699	41%	20%	24%	9%	6%	15%
高校(全日制)	719	48%	16%	20%	8%	8%	16%
高校(定時)	71	73%	15%	8%	1%	1%	3%
特別支援	340	46%	28%	20%	4%	3%	6%
全体	2669	43%	20%	22%	9%	7%	16%



問 上の問において②～⑤と回答した方だけに質問します。

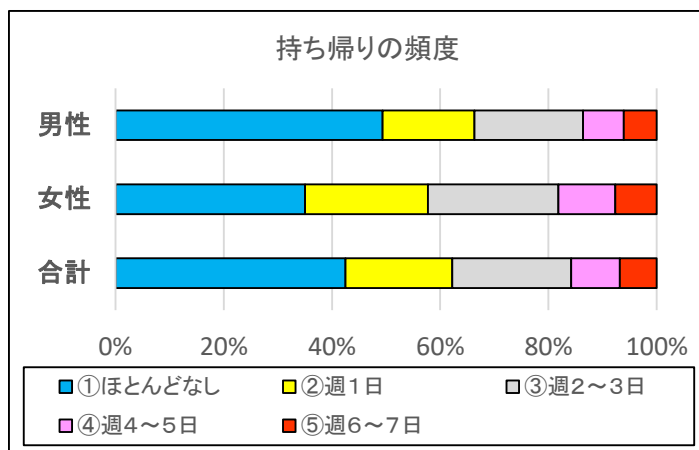
自宅に持ち帰って業務する主なものを、次の中から2つ以内で選んで下さい。(校種別)

	小学校	中学校	高校(全日制)	高校(定時)	特別支援	全体
授業準備・教材研究	68%	69%	82%	79%	87%	74%
プリント宿題等の点検	48%	43%	47%	0%	3%	40%
評価のための資料作成	6%	14%	5%	16%	4%	8%
通信の作成	7%	8%	1%	11%	3%	5%
会議などの準備	14%	16%	11%	21%	20%	15%
週案・指導案	23%	13%	2%	0%	12%	13%
アンケート集計	1%	1%	0%	0%	1%	1%
不定形	10%	12%	11%	11%	20%	12%



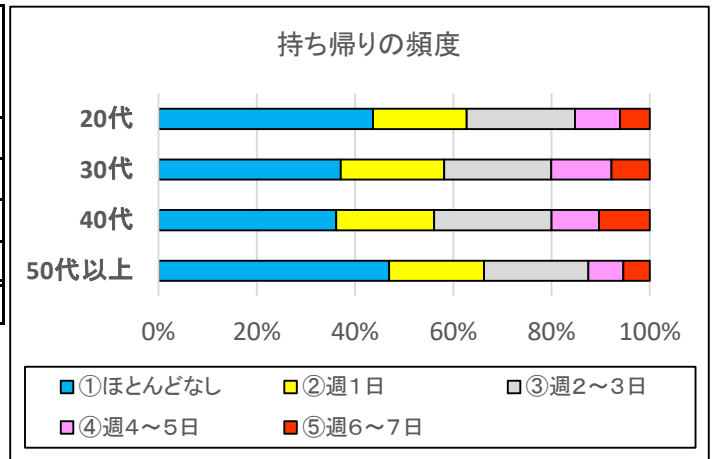
問 自宅に持ち帰って、業務をすることは1週間の内どれくらいありますか。(男女別)

	有効回答数	① ほとんどなし	② 週1日	③ 週2～3日	④ 週4～5日	⑤ 週6～7日	④ + ⑤
男性	1398	49%	17%	20%	8%	6%	14%
女性	1271	35%	23%	24%	11%	8%	18%
合計	2669	43%	20%	22%	9%	7%	16%



問 自宅に持ち帰って、業務をすることは1週間の内どれくらいありますか。(年代別)

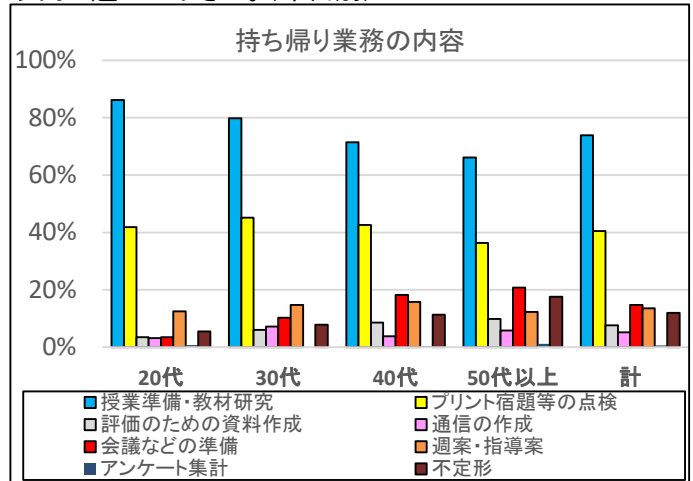
	有効 回答 数	① ほとん どなし	② 週1日	③ 週2～ 3日	④ 週4～ 5日	⑤ 週6～ 7日	④ + ⑤
20代	513	44%	19%	22%	9%	6%	15%
30代	528	37%	21%	22%	12%	8%	20%
40代	456	36%	20%	24%	10%	10%	20%
50代以上	1171	47%	19%	21%	7%	5%	12%
合計	2668	43%	20%	22%	9%	7%	16%



問 上の問において②～⑤と回答した方のみ質問します。

自宅に持ち帰って業務する主なものを、次の中から2つ以内で選んで下さい。(年代別)

	20代	30代	40代	50代 以上	計
授業準備・教材研究	86%	80%	71%	66%	74%
プリント宿題等の点検	42%	45%	43%	36%	41%
評価のための資料作成	3%	6%	9%	10%	8%
通信の作成	3%	7%	4%	6%	5%
会議などの準備	3%	10%	18%	21%	15%
週案・指導案	12%	15%	16%	12%	14%
アンケート集計	1%	0%	0%	1%	1%
不定形	6%	8%	11%	18%	12%



問 自宅に持ち帰って業務をすることは、これまでと比較して変化がありますか。(校種別)

	有効 回答 数	① 増加 した	② 減少 した	③ 変わ らない	④ 昨年度 勤務な し
小学校	796	12%	27%	55%	7%
中学校	662	13%	24%	59%	4%
高校(全日制)	675	13%	17%	65%	5%
高校(定時制)	67	10%	19%	66%	4%
特別支援	323	15%	23%	55%	7%
全体	2523	13%	23%	59%	6%

